

杉崎 鉦司 (2017 年度学会賞(著書)受賞)

この度は、拙著『はじめての言語獲得—普遍文法に基づくアプローチ』(岩波書店, 2015 年) に対して 2017 年度日本英語学会賞(著書)を賜り、大変光栄に思っております。貴重なお時間を割いて選考を実施して下さった選考委員の先生方および事務局の先生方に篤く御礼申し上げます。

本書は、生成文法理論に基づく母語獲得研究に関する私自身の成果をできるだけわかりやすく整理するとともに、その成果を他の研究者による主要な成果の中に位置づけることで、研究書と入門書の両方の側面を持つことを試みたものです。具体的には、すべての言語が満たすべき制約である「原理」と、言語の可能な異なり方を定める制約である「パラメータ」に関して、それぞれが母語獲得過程において機能していることを示す証拠を数多く提示することで、読者が母語獲得研究に対する1つのアプローチを深く理解できることを目指しました。新たな研究に堅実に取り組むことの重要性、そしてその成果と意義を大きな視点から捉え、わかりやすい言葉で明示的に述べることの重要性は、私が学生時代に、梶田優先生と大津由紀雄先生から最初に学んだことの一つです。そして、母語獲得研究を行うことの楽しさは、コネチカット大学大学院へ留学中に、指導教員である William Snyder 先生との共同研究を通して学ぶことができました。生成文法理論の分野に導いてくださった梶田優先生、そして学生時代から現在に至るまで、同じ分野の研究者として常にご指導いただいている大津由紀雄先生、留学中も留学後もずっと励ましてくださっている William Snyder 先生に心から御礼申し上げます。また、本書の執筆の機会を与えてくださった岩波書店の浜門麻美子様にもあらためて感謝申し上げます。

本書で取り上げた内容やその構成については、前任校である三重大学、および長年にわたって非常勤講師として授業を担当させていただいた南山大学における学部生を対象とした授業での経験に基づいています。これらの授業を持つ機会を与えてくださった三重大学の綾野誠紀先生・澤田治先生・服部範子先生・吉田悦子先生、南山大学の斎藤衛先生・村杉恵子先生に心より感謝申し上げます。

その他にも、本当に数多くの研究者の方々に支えられて、本書の執筆および受賞にたどり着くことができました。偶然にも、受賞の年に新たな職場(関西学院大学)も与えていただきましたので、私を支えてくださっている方々への感謝の念を忘れることなく、またその期待に応えることができるよう、この受賞を新たな第一歩として、これまで以上に堅実にかつ積極的に母語獲得研究を進めていきたいと思っております。この度は、身に余る賞をいただき、誠にありがとうございました。